

大津企業景況調査報告書

(第85回)

2019年4月～6月期 実績

2019年7月～9月期 見通し

大津商工会議所

大津企業景況調査について

(2019年4月～6月期)

1. 調査方法

大津商工会議所会員企業 160 社に F A X方式による調査

2. 調査企業

産 業 別	調査対象企業数	有効回答企業数	回 収 率
製 造 業	1 6 社	7 社	4 3 . 8 %
卸 売 業	1 5 社	1 2 社	8 0 . 0 %
小 売 業	4 0 社	2 4 社	6 0 . 0 %
サービス業	6 0 社	3 0 社	5 0 . 0 %
建 設 業	2 9 社	1 6 社	5 5 . 2 %
合 計	1 6 0 社	8 9 社	5 5 . 6 %

3. 調査期間

調査対象期間は2019年4月～6月とし、調査時点は2019年6月1日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指数として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借入れの難易度」の DI 指数は、3 ヶ月前との比較である。

「採算(経常利益)の水準」、「取引の問い合わせ」の DI 指数は、過去比較でなく、水準を聞いたものである。

景況感は、ゆるやかな悪化が続く

平成31年4月～令和元年6月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数としてDI指数（景気動向指数）を採用している。DI指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

全体

景況感は、今四半期の全体の業況判断DI（前年同期比）が前四半期の▲3から5ポイント悪化して▲8となり、ゆるやかな悪化が続いている。但し、業種により濃淡あり、災害復興需要や他地域での人手不足から受注が増えた建設業はプラスを維持している。一方、製造業、卸売業では再びマイナスに転じた。サービス業もマイナス幅が拡大した。

先行きの業況判断DIは、全体では▲8から▲7へと来四半期の見通しに大きな変化はない。業種別では、建設業はさらにプラス幅を拡大し、卸売業、サービス業も改善を見込んでいる。一方で、製造業や小売業では悪化し、さらにマイナス幅が拡大するとみている。米中貿易摩擦や、今秋の消費税増税などによる景気の先行き不安が業況判断に影響しているとみられる。「従業員」については、全業種で引き続き人手不足感が高止まりするとみている。

□ 業況判断DI（前年同期比）は、建設業を除く全体で悪化、製造、卸売、サービス業で顕著

「前年同期比でみた業況判断DI(全体)」（「好転」－「悪化」）は、前四半期の▲3から5ポイント悪化して今四半期は▲8となっている。業種別では、建設業は堅調で今期も同様に+6でプラスを維持し、小売業も▲10から▲4へと改善した。一方で、製造業は±0から▲14へ、卸売業も+8から▲8へとマイナスに転じ、サービス業も▲9から▲17へと悪化した。

□ 売上DI（前年同期比）は、卸売業を除いて悪化、特に製造業、小売業、サービス業で顕著

「前年同期比でみた売上DI(全体)」（「増加」－「減少」）は、前四半期の+2から9ポイント悪化して今四半期は▲7と再びマイナスに転じた。業種別では、卸売業は+8から+17へと良化した。一方で、製造業で±0から▲29へ大幅に悪化し、小売業で▲5から▲13へ、サービス業で▲9から▲20へとマイナス幅が拡大し、堅調な建設業でもプラス幅が縮小した。

□ 採算DI（前年同期比）は、建設業で改善も、製造業、小売業、サービス業で悪化

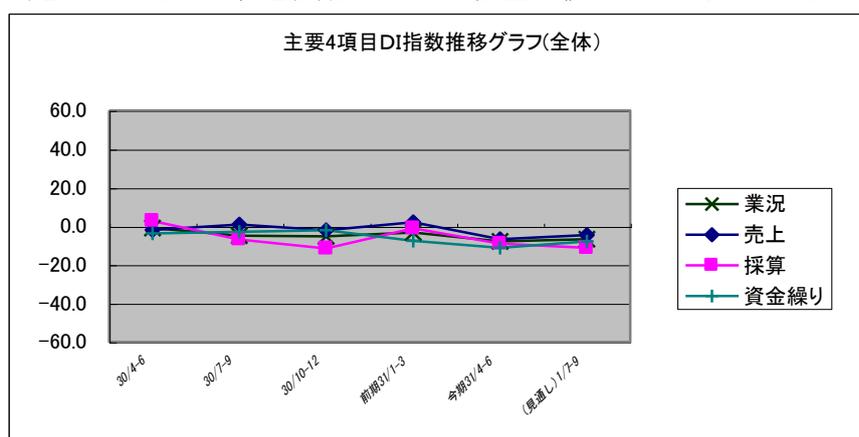
「前年同期比でみた採算(経常利益)DI(全体)」（「好転」－「悪化」）は、前四半期の▲1から今四半期は▲9へと大幅に悪化した。小幅改善した建設業、横ばいの卸売業を除き、他の全ての業種で悪化した。製造業は±0から▲14へ、小売業は▲5から▲17へ、サービス業も▲3から▲17へと、いずれも12ポイント以上悪化し、マイナス幅が拡大した。

□ 資金繰りDI（3ヵ月前比）は、全体では悪化も、業種によりまだら模様

「3ヵ月前比でみた資金繰りDI(全体)」（「好転」－「悪化」）は、前四半期の▲8から▲11へと悪化した。業種によりバラツキあり、卸売業では▲8から+8へとプラスに転じ、建設業でも▲25から▲6へと改善した。一方で、サービス業は+3から▲17へ、製造業も±0から▲14へ悪化し、小売業もマイナス幅が拡大した。借入れ易さも全体で悪化している。

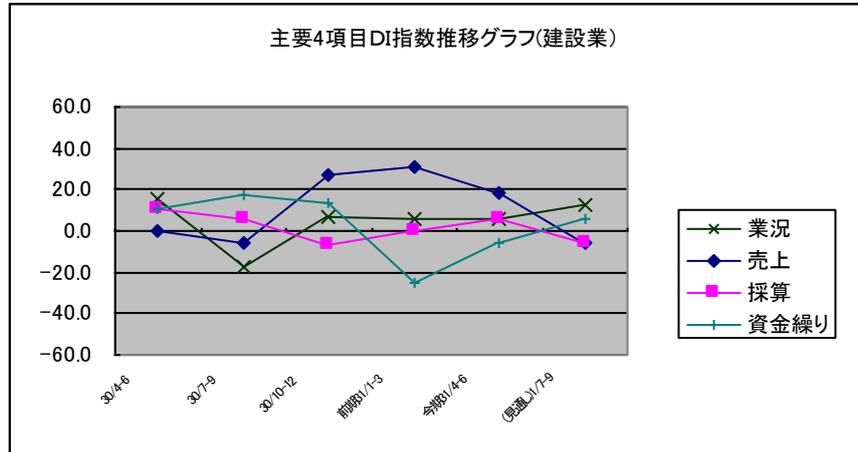
□ 従業員DI（前年同期比）は、一部で改善の兆しもあるも、全体では人手不足感は強まる

「前年同期比でみた従業員DI(全体)」（「不足」－「過剰」）は、前年同期比2ポイント増加し+30となり、人員不足感が強まっている。但し業種によりバラツキあり、製造業、小売業では改善の兆しがある一方、建設業では+50以上が続いており人手不足が深刻である。



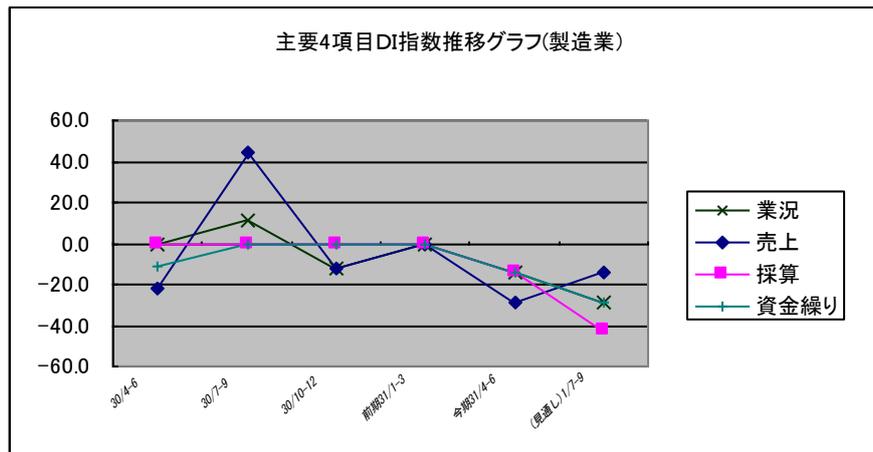
建設業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期と同様に今四半期も+6 を維持している。個別指標をみると、「売上」は前四半期+31 から今四半期は+18 へとプラス幅は縮小したが、「採算」は±0 から+6 へと改善し、「採算の水準」も+63 という高い水準を維持している。災害復興需要での受注残や、他府県での建設関係の人手不足から当地に回ってくる受注の増加もあるとみられる。「資金繰り」も前四半期▲25 から今四半期▲6 へと改善した。「従業員」は+50 から+56 となり、人手不足はさらに深刻な状況となっている。



製造業

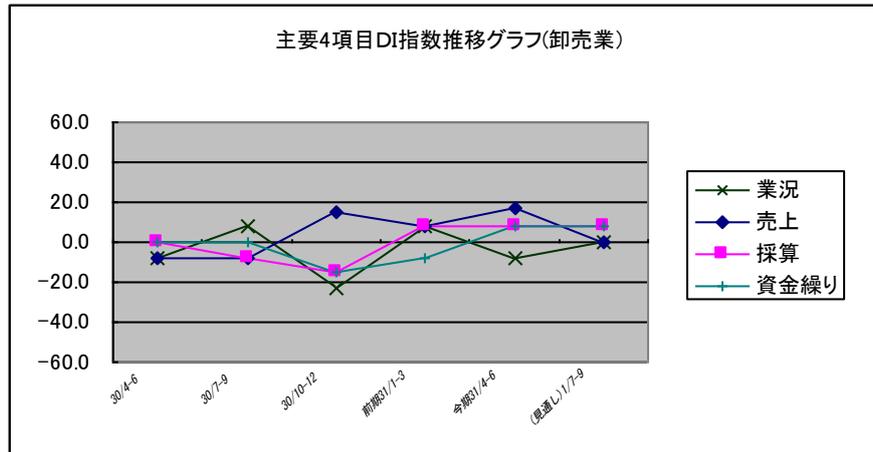
DI 指数をみると、「業況」は前四半期の±0 から今四半期は▲14 へと再び悪化した。米中貿易摩擦による大手の景況感後退の影響が地方の製造業にも波及しているとみられる。個別指標をみると「売上」は前四半期±0 から今四半期へ▲29 と大幅に悪化し、「採算」についても±0 から▲14 へと悪化した。「従業員」については+20 から±0 へと人手不足感が大きく緩和してきている。



卸売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の+8 から今四半期は▲8 へと再びマイナスに転じた。一方で、個別指標をみると、「売上」は前四半期+8 から今四半期+16 と良化し、「採算」は+8 を維持したものの、「採算の水準」は+25 から+33 へと改善しており、悪化した「業況」の判断と、「売上」や「採算の水準」など個別指標との乖離が見受けられる。これについては、来四半期の「売上」が+17 から±0 へと悪化するとみており、これが先行きの業況判断見通しに影響しているかもしれない。

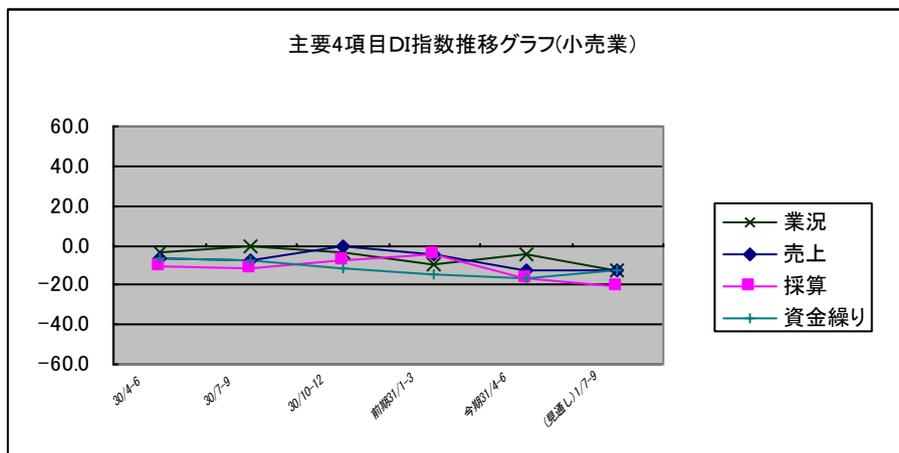
「従業員」は+25 で推移しており、引き続き人手不足感が続いている。



小売業

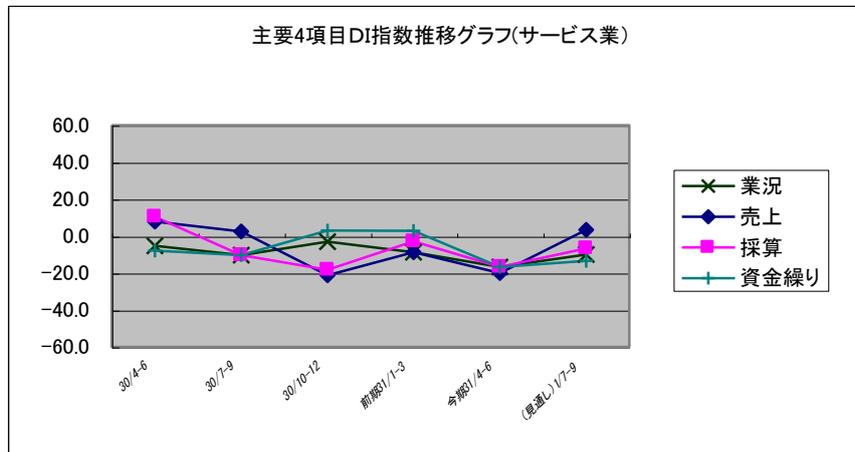
DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲10 から今四半期は▲4 と小幅改善した。一方で、個別指標をみると、「売上」は前四半期の▲5 から今四半期▲13 へと悪化しており「採算」も▲5 から▲16 へとマイナス幅が拡大している。中には、令和改元による新規需要の影響や新商品のニーズ獲得がプラスに作用した事業者や、一方で、天候不順の影響で原材料の高騰がマイナスに作用した事業者など、取り扱う商品によっては、これらの外部環境の影響の受け方は様々であることがコメントからうかがえる。

「従業員」は+33 から+25 となり、人手不足感はやや緩和したとみている。



サービス業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲9 から今四半期は▲17 へとさらに悪化した。個別指標をみると、「売上」は▲9 から▲20 に、「採算」は▲3 から▲17 へと大幅に悪化した。全般的な景気の先行き不安による不要不急経費に対する節約志向での売上減少や、最低賃金引き上げによる経費の増加などが影響しているとみられる。「従業員」は+18 から+30 へと、さらに人手不足感が高まっている。



来四半期（3ヵ月後）の「業況」DIは、今四半期の▲8 から来四半期は▲7 へと全体では大きな変化はないとみている。個別指標をみると、「売上」は▲7 から▲5 へとやや改善するとみている。「採算」は▲9 から▲11 へ、「採算の水準」も+17 から+12 へとプラスを維持しながらもやや悪化するとみている。「従業員」は+30 から+28 へやや緩和するものの、人手不足感は引き続き高止まりするとみている。

業種別の「業況」DIでは、建設業は+6 から+13 へとさらにプラス幅を拡大し、卸売業は▲8 から±0 へ、サービス業も▲17 から▲10 へと改善するとみている。一方で、製造業は▲14 から▲29 へ、小売業も▲4 から▲13 へとさらにマイナス幅が拡大するとみている。

米中貿易戦争による全世界的な経済活動の落込み、米利下げ観測による円高懸念、今秋の消費税増税などによる景気の先行き不安が業種により業況判断に影響しているとみられる。

「従業員」では、卸売業やサービス業で「合理化省力化」の設備投資の効果で人手不足感が緩和するとの見通しも見受けられるが、全体では人手不足感が高止まりするとみている。

3ヵ月後の設備投資については、設備投資計画があると回答した企業の割合は29%で、3ヵ月前と同様である。設備投資計画がないと回答した企業の割合は64%で、全国的な景気の下支えとして大企業を中心とした堅調な設備投資が見込まれている一方で、地方の中小企業では設備投資意欲が低い状態が継続しているとみられる。業種別にみると、製造業が最も高く43%、サービス業30%、小売業が29%、建設業と卸売業が同じく25%となっている。

投資する企業の投資内容の割合は、「設備更新」が33%で最も多く、「合理化・省力化」が30%、「生産力増加」が13%である。引き続き、老朽化した機械・装置の入れ替えが進むとみられる。「合理化省力化」について業種別でみると、建設業で40%、製造業と卸売業で33%、サービス業で30%、小売業で22%となっており、幅広い業種で人手不足対応の投資は継続していくとみられる。

投資方針は、「計画通り」が前期より2ポイント増加して54%、「景気により見直す」が前期の33%から27%へと減少している。不安定な政治・経済情勢を背景に先行きに警戒感を抱きながらも、事業者は必要な「設備更新」や人手不足対応の「合理化省力化」を今のうちに進めておこうと考えていることがうかがえる。

田中マネジメント事務所
MBA・中小企業診断士 田中清行

(今の経済情勢に対する意見)

以下は、今の経済情勢に対する意見である。

- ・琵琶湖産にごろ鮎は本年度大変不漁の為、原材料価格上昇、原料不足です。(小売業)
- ・5月は「令和」のお祭り間で小売りは良かった。消費心理と天気が重なったからだと思います。刺激に反応する消費者が多いと思う。(小売業)
- ・売店直売がチラシ撒き・売出しチラシにて多くなっているが、それに対応する商品確保、要望ニーズへの対応に手間取り、従来の顧客営業に力を入れられず苦慮。変化球に対しては新たな営業に力を入れた事はよかった。(小売業)
- ・ここ数年ずっと悪化しています。3ヶ月程度の範囲では何も変わりません。ゆるやかに回復とかとんでもない。バー、スナック、カラオケ、飲食業、タクシー等、ひどい状態だと思います。(サービス業)
- ・今秋、消費税が引き上げられるかと思うと、その後の変化がどうなるのか安心できません。売れるもの、ニーズのあるものを商品にしていきますが、それによって客単価が下がることも懸念されます。(サービス業)
- ・継続するゼロ金利の影響から地銀クラスは業績悪化の会社には貸出金利を引き上げる傾向にあるのではないかと。(サービス業)
- ・インバウンド(訪日客)消費や富裕層の高額消費が好調推移している。一方で、最低賃金上げなどの議論は中小企業にとって人件費増大による経営への影響が大きい。生産性向上の支援などで企業が自発的に賃上げを出来る環境整備が望まれる。(サービス業)
- ・職人不足の為に他府県からの仕事依頼が多い。(建設業)
- ・直結して仕事には影響していませんが、世界の乱れが静まって貰いたい。(建設業)

以上

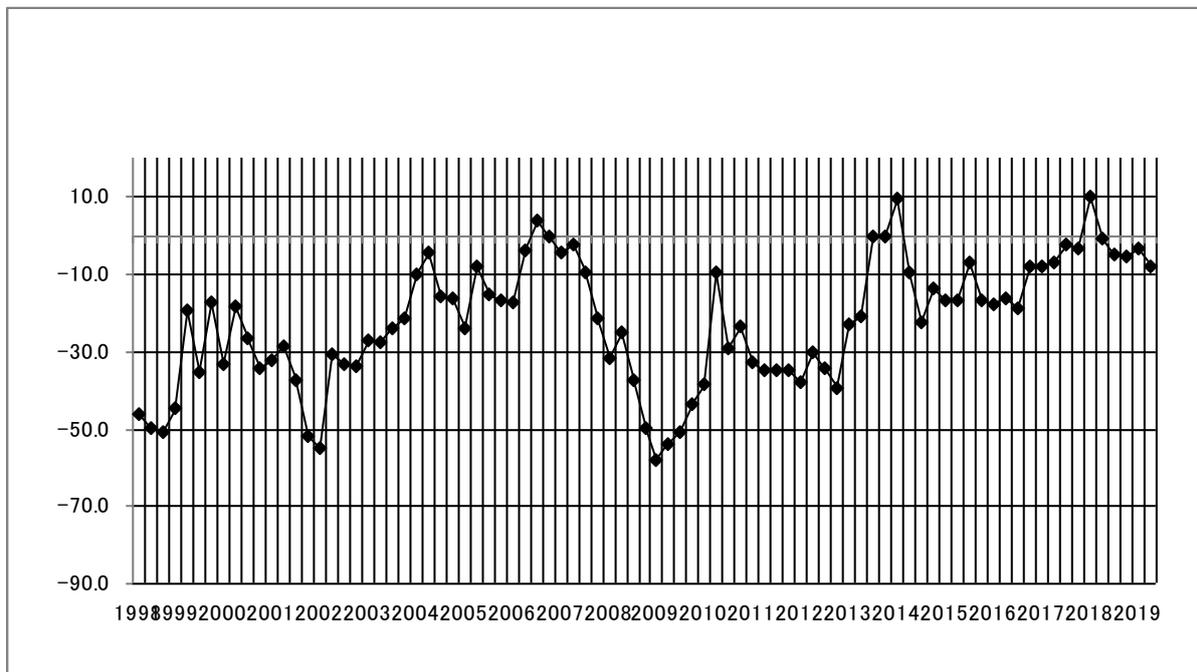
DI 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見 通 し	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見 通 し	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見 通 し
全 体	▲7.9	▲6.7	▲6.7	▲4.5	▲9.0	▲11.2
建 設 業	6.3	12.5	18.8	▲6.3	6.3	▲6.3
製 造 業	▲14.3	▲28.6	▲28.6	▲14.3	▲14.3	▲42.9
卸 売 業	▲8.3	0.0	16.7	0.0	8.3	8.3
小 売 業	▲4.2	▲12.5	▲12.5	▲12.5	▲16.7	▲20.8
サービス業	▲16.7	▲10.0	▲20.0	3.3	▲16.7	▲6.7
	前年同期との比較		前年同期との比較		前年同期との比較	

	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見 通 し	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見 通 し	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見 通 し
全 体	16.9	12.4	▲14.6	▲10.1	30.3	28.1
建 設 業	62.5	31.3	6.3	25.0	56.3	56.3
製 造 業	28.6	14.3	▲28.6	▲28.6	0.0	0.0
卸 売 業	33.3	33.3	16.7	8.3	25.0	16.7
小 売 業	▲4.2	▲8.3	▲20.8	▲16.7	25.0	25.0
サービス業	0.0	10.0	▲30.0	▲26.7	30.0	26.7
	今期水準と来期見通し		今期水準と来期見通し		前年同期との比較	

	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	4-6月期 動向	7-9月期 見通し	4-6月期 動向	7-9月期 見通し	4-6月期 動向	7-9月期 見通し
全体	▲11.2	▲7.9	▲4.5	▲5.6	1.1	▲1.1
建設業	▲6.3	6.3	6.3	6.3	12.5	12.5
製造業	▲14.3	▲28.6	▲14.3	▲14.3	0.0	0.0
卸売業	8.3	8.3	▲8.3	▲8.3	0.0	0.0
小売業	▲16.7	▲12.5	▲4.2	▲8.3	0.0	▲4.2
サービス業	▲16.7	▲13.3	▲6.7	▲6.7	▲3.3	▲6.7
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

本調査開始（1998年 第二四半期）以降 業況DI指数推移グラフ（全体）



※縦目盛り軸は、全業種の業況DI指数を表しています。横目盛り軸は、調査年を西暦で表しています。

大津商工会議所

〒520-0806

滋賀県大津市打出浜 2 番 1 号

コラボしが 21 9 階

TEL : 0 7 7 - 5 1 1 - 1 5 0 0

FAX : 0 7 7 - 5 2 6 - 0 7 9 5

URL <http://www.otsucci.or.jp/>